



図6 養殖エビによる眼柄切除結果  
□内の数字は尾数を示す

見られ始め、26日目の7月28日には2尾がステージⅢに達した。その2尾を産卵槽（500ℓ黒色パンライト水槽）に移したところ、移槽後3日目の7月30日に産卵が行なわれた。2尾とも完全放卵し、産卵数は計106万粒であった。卵はふ化直前の状態で発生が止まるものが多く、ノープリウスになったのは7万尾程度であった。その内、稚エビ（P<sub>20</sub>）まで順調に育ったのは6,447尾であった。

№3では卵巣の発達は見られなかった。

養殖エビ（1才）を用いた試験では、ステージⅢまでは発達するものの、Ⅳまで発達する個体はいなかった（図6）。3月9日、4月2日及び4月8日にステージⅢに達した個体を産卵槽へ移したが産卵しなかった。

眼柄切除と水温の上昇はウシエビの成熟促進に効果があると思われたが、個体によって結果が異なり、また成熟過程の途中で成熟が止まってしまう個体があることから、眼柄切除による産卵誘導の成功は、眼柄切除後の飼育管理に左右されるだけでなく、供試する親エビの生理状態にも左右されるものと思われる。今後は眼柄切除以前の親エビの仕立て方について重点的に検討する必要がある。

## 2. 越冬試験

### 1) 地下水による越冬

#### a 方法

アクリルハウス内の2㎡コンクリート水槽（水深50cm）5面を使用し、砂床は特に作らなかった。塩分濃度12‰前後の地下水を約7.1回転/日で注水して飼育した。A～D区の供試エビは当水産試験場で種苗生産したもので、E区は台湾産1才エビを用いた。放養